

第8期歩行訓練指導員養成講習会 実施報告

日本ライトハウス
職業生活訓練センター
主任 芝田 裕一

はじめに

厚生省の委託による視覚障害者のための、歩行訓練指導員研修会（講習）は、今回で第7回目を迎え、アメリカ海外盲人援護協会の支援による第1回目を加えると総参加者は123名となった。

今回の研修会は、従来の期間2カ月を4カ月に延長して、欠くことのできない実習、マンツーマンの実技指導、集中講義などのほか、新たに視覚障害者の諸技能の訓練を見学するなど視覚障害者のリハビリテーションについて総合的に学べるよう内容を一新させ従来の講習会を更に充実させるためのカリキュラムを組み実施した。

1. 研修期間

昭和53年8月18日より12月20日まで約4カ月にわたって行なった。

2. 受講者

今回は、定員（15名）を1名したまわる14名が応募し全員の受講を許可した。なお14名中1名は、台湾盲人重建院からの参加である。

参加受講者は下記のとおりである。

NO.	氏名	性別	年齢	所 属	県 名
1	荒井 洋一	男	27	社会福祉法人日本ライトハウス	大阪
2	伊藤 好行	男	27	神奈川県ライトセンター	神奈川
3	嘉藤 喜代美	女	29	大阪市身体障害者団体協議会	大阪
4	工藤 幸雄	男	23	青森県立盲学校	青森
5	佐藤 慶子	女	23	社会福祉法人京都ライトハウス	京都
6	杉原 憲明	男	31	国立函館視力障害センター	北海道
7	村主 和子	女	25	大阪府盲人福祉協会	大阪
8	鈴木 雅文	男	22	社会福祉法人名古屋ライトハウス	愛知
9	豊田 信之	男	31	福岡市民生局	福岡
10	林 由美子	女	22	社会福祉法人日本ライトハウス	大阪
11	平本 敏樹	男	23	国立福岡視力障害センター	福岡
12	村岡 精二	男	26	宮崎県立明星学園	宮崎
13	山口 玲子	女	25	長崎県立啓明寮	長崎
14	呉 明球	女	24	台湾盲人重建院	台湾

3. 実技指導内容

A. 実 技

実技は実技講師が1名の受講者を指導するマンツーマン方式でアイマスクによる体験歩行を行った。白杖は日本ライトハウスで販売しているグラスファイバー製の直杖を使用した。

実技講師として下記の日本ライトハウス職業・生活訓練センター指導員5名が任にあたった。

所長代理 関 宏之 研究主任 芝田 裕一
生活指導員 面高 雅紀 生活指導員 福嶋 正治
生活指導員 新井 宏

実技は8月18日より11月11日まで計46時間実施した。

そのカリキュラムは、次のとおりである。

〈実技指導カリキュラム〉

単元Ⅰ 屋内歩行（4時間）

基礎技術および屋内における歩行指導。

単元Ⅱ 住宅街歩行（16時間）

白杖使用技術および住宅街における歩行指導。

単元Ⅲ 繁華街歩行（15時間）

白杖使用技術および繁華街における歩行指導。

単元Ⅳ 応用歩行（11時間）

交通機関の利用法および復習としての応用歩行の指導。

実技については、受講者に下記の実技技術について、目的、手続、注意事項の3項目にわたって記入させ、担当の実技講師がこれをチェックした後、清書させ提出させた。このノートは、本人の具体的な歩行カリキュラムとして実際に利用するので提出後再チェックを行ない本人に返却した。

〈実技技術〉

(1) 基礎技術

1. 手 引 き

a. 基本姿勢 b. 狭所 c. 戸 d. 階段(上昇) e. 階段(下降)

f. 着席

2. ハインズブレイク

3. 防 御

4. 伝い歩き

5. 方向のとり方

a. 平 行 b. 直 角

6. 落とし物の拾い方

7. 室内オリエンテーション（説明）

(2) 白杖使用技術。

1. 白杖による防御。
 - a. 基本
 - b. 手引き時
 - c. 白杖の置き方
2. タッチテクニック
 - a. タッチテクニック
 - b. タッチアンドスライド
3. 白杖による階段昇降。
 - a. 上 昇
 - b. 下 降
4. 自動車の乗降。
5. 歩車道の区別のない道路歩行。
 - a. Veering後の定位
 - b. 障害物の避け方
 - c. 車の避け方
6. 白杖による伝い歩き。
7. 信号のない道路横断。
 - a. 四つ角の見つけ方
 - b. 方向の維持
 - c. Veering後の定位
8. 路切横断。
9. 地域の説明（オリエンテーション）
10. 歩車道の区別のある道路横断。
11. 信号のない歩車道の区別のある道路横断。
 - a. 歩道のえん石、交差点の見つけ方
 - b. 方向の維持
 - c. Veering後の定位
12. 信号のある道路横断。
13. 混雑地域での白杖使用。
14. 援助の依頼。
15. ドロップオフ。
16. エレベーター。
17. エスカレーター。
18. バス乗降。
19. 電車乗降。

B. 講 義

講義は例年どおり 1.盲人をとりまく社会的環境 2.人間行動の原理 3.盲人と環境
4.適応行動訓練の展開に分割構成し、殆んどを夏期に集中して行なった。なお講義時間は
「眼の役割と眼疾」6時間を除きすべて3時間であった。

以下は、日程ならびに講師名である。

〈講義日程〉

- | | |
|-----------------------------|---------|
| 8月19日(土) 午前 「カウンセリングの理論と実践」 | |
| 関西学院大学教授 | 武田 建 |
| 8月19日(土) 午後 「聴覚心理学」 | |
| 大阪大学教授 | 難 波 精一郎 |

8月21日(月) 午前	「日本の盲人事情の変遷」 大阪府立盲学校長	本間伊三郎
8月21日(月) 午後	「歩行訓練の理論」 日本ライトハウス職業・生活訓練センター研究主任	芝田 裕一
8月22日(火) 午前	「盲人の生活空間」 国立特殊教育総合研究所	木塚 泰弘
8月22日(火) 午後	「今日の盲人をとりまく現実」 日本ライトハウス職業・生活訓練センター主幹	日比野 清
8月23日(火) 午前	「眼の役割と眼疾」 大阪警察病院眼科部長	塚本 尚
8月23日(火) 午後	同 上	
8月24日(水) 午前	「盲人と職業」 日本ライトハウス職業・生活訓練センター 専門技術職業訓練部々長	辻内 弘
8月24日(水) 午後	「知覚のしくみ」 東京女子大学講師	田中 一郎
8月25日(金) 午前	「学習心理学」 関西学院大学心理学研究室	美濃 一夫
8月25日(金) 午後	「重複視覚障害者の歩行訓練」 社会福祉法人光通園	真家 徹
8月26日(土) 午前	「アメリカにおける歩行訓練」 日本ライトハウス職業・生活訓練センター研究主任	芝田 裕一
8月26日(土) 午後	「私と歩行」 福井県立盲学校教諭	長谷川了示
8月28日(月) 午後	「ブラインディズム」 筑波大学教授	佐藤 泰正
9月7日(水) 午後	「盲児の歩行訓練」 日本ライトハウス職業・生活訓練センター研究主任	芝田 裕一
9月9日(金) 午前	「地図と歩行訓練」 日本ライトハウス職業・生活訓練センター指導員	新井 宏
9月12日(火) 午後	「感覚訓練」 日本ライトハウス職業・生活訓練センター所長代理	関 宏之
9月14日(木) 午後	「聴覚と歩行訓練」 日本ライトハウス職業・生活訓練センター指導員	福嶋 正治
10月12日(水) 午後	「世界の盲人事情とリハビリテーションセンターの使命」 日本ライトハウス理事長	岩橋 英行
11月18日(日) 午前	「行動療法」 関西学院大学教授	今田 寛

C. 実 習

実習は、日本ライトハウス職業・生活訓練センター歩行指導員の監督指導を受け、当施設新入所生の館内オリエンテーション実習、歩行訓練見学研修ならびに歩行訓練実習を行った。以下はその日程である。

〈実習日程〉

9月4日～6日 日本ライトハウス職業・生活訓練センター 新入所生、館内
オリエンテーション指導実習（15時間）

9月7日～11月10日 当施設歩行訓練見学 （99時間）

11月13日～12月15日 当施設歩行訓練実習 （25時間）

※担当指導員 芝田裕一、面高雅紀、福嶋正治、新井 宏。

9月4日から9月6日までの当施設新入所生館内オリエンテーション指導実習については、「新入所生館内オリエンテーション評価表」（A）にもとづいてその指導進度ならびに評価を記述させ提出させた。

また、11月13日から12月15日までの当施設歩行訓練実習については、各受講者が当施設入所生1名の歩行訓練を担当した。なお各実習を行なう前に、その担当受講者に「実習生歩行訓練計画」（B）にもとづいて実習計画を記述させた。また実習後には歩行訓練の進捗を記述提出させた。

D. 盲導犬および超音波メガネの見学研修

盲導犬見学研修は新しく開設した日本ライトハウス職業・生活訓練センター、和歌山行動訓練所にて12月8日、9日の2日間、当施設盲導犬担当指導員 日紫喜 均三の監督指導のもとに講義と実習を行なった。

超音波メガネは当施設 生活指導員 面高雅紀が監督指導し12月3日講義および実習を行なった。

E. 生活訓練ならびに職業訓練の見学研修

上記見学研修は当施設の生活ならびに職業担当の各指導員が監督指導し9月7日より12月15日まで当施設第2学期の日程にそって、144時間行なった。

F. 研究発表

研究発表は受講者の自由時間を利用させ実技講師の監督指導のもとに下記の課題の中から一つ選定、小論文にまとめさせた。またその発表は12月19日、9時30分より16時30分まで1人30分を行なわせた。

〈研究発表課題〉

1. 糖尿病と歩行
1. 視野欠損と歩行

(A)

新入生館内オリエンテーション評価表

昭和 年 月 訓練生氏名

場所	月 日	月 日	月 日	月 日	総合評価及び備考
	単元Ⅰ	新 館			
トイレ					
給湯室					
食堂 (含内線)					
洗面所					
舎監室 (含内線)					
非常口					
内線電話 東2階					
内線電話 東3階					

単元Ⅱ	旧 館 2 階				
単球室					
調理室					
モデルハウス					
2号教室					
1号教室					
談話室					
3号教室					
4号教室					

5号教室					
内線電話 旧館中廊下					
物置					
オプタコン室					
カウン セリング室					
地 図					

単元Ⅲ	旧 館 北				
感覚訓練室					
講 議 室					
医 務 室					
地 図					

単元Ⅳ	旧 館 1 階				
職員室					
受 付					
コンピ ューター室					
キーパンチ室					

赤電話					
職業訓練室					
地 図					

単元 V	新 館 2 階				東：西 階段使用(どちらかに○)
音感の部屋					
電話交換 訓 練 室					

単元 VI	新 館 1 階				西階段使用
夜間通用口					
黄 電 話					

単元 VII	新 館 3 階				東：西 階段使用(どちらかに○)
屋 上					
物干(屋上)					
物干(屋内)					

単元 VIII					
全体的な館 内地圖の把握					

単 元 Ⅸ					
風呂屋内部 の理解度					

評価に関して

1. 各部屋ごとに評価し、その回の総合評価（含む、伝達事項）を書く。
2. 評価は、3段階で行なう。
 - → OK
 - △ → 様子を見る。
 - × → やりなおし。
3. 使用したコース（廊下：階段）を明確に記述する。
4. 新館3階から2階へ（あるいはその逆）は、東・西どちらの階段を使用したか○印をつけ、また、地図にコースを記入する。

そ の 他

1. 食堂内の座席は、オリエンテーション中に決めないで下さい。
2. 館内オリエンテーションが全て終了すれば、その旨、歩行指導員まで申し出て下さい。
3. 問題点があれば歩行指導員に申し出て下さい。

(B)

実習生歩行訓練計画

昭和	年	月	日	時間数	時間
訓練生				実習生	
訓練場所					
目的					

出発地点					
目的地					
訓練上の注意事項					

1. 統合教育
1. 知覚と歩行
1. 失明と視覚障害者の心理
1. 視覚障害者の福祉と社会保障
1. ペーチェット病と歩行
1. 学習心理学と歩行
1. 点字ブロック
1. 緑内障と歩行

G. ゼミナール

ゼミナールは、1回1時間計14回、講習全般についての補足説明等を、当施設研究主任芝田裕一の監督指導により行った。以下はその日程である。

〈ゼミナール日程〉

- 9月11日(月) タッチテクニック
- 9月18日(月) 住宅街歩行訓練
- 10月3日(火) 白杖による伝い歩き
- 10月11日(水) 歩行訓練の導入・自動車乗降・階段昇降
- 10月18日(水) 住宅街歩行訓練
- 10月24日(火) ドロップ オフ
- 10月30日(月) 天満橋地域歩行訓練・電車乗降・バス乗降・エスカレーター・エレベーター昇降
- 11月6日(月) 買物訓練・ハインズブレイク
- 11月13日(月) 歩行指導員の養成
- 11月17日(金) 社会福祉法人日本ライトハウス職業・生活訓練センター歩行訓練指導書単元Ⅱ
- 11月22日(水) 同上、単元ⅢC
- 12月1日(金) ドロップオフ関係8ミリ映写
- 12月6日(水) 実習
- 12月13日(水) 点字ブロック 以上14回。

H. レポート

「実投ノート」、「新入生館内オリエンテーション評価表」、「実習生歩行訓練計画」、「歩行進捗表」、「研究発表」以外に次の3種のレポートを提出させた。

〈レポート課題〉

1. 視覚障害者にとって歩行とは何か。
2. Aタイプ及びBタイプの訓練について述べよ。
3. 住宅地域歩行訓練についてその指導書を作成せよ。

I. テキストおよび参考資料

テキストおよび参考資料として次のものを配布した。

1. 視覚障害者のためのリハビリテーション I 歩行訓練
1. 視覚障害研究 第5号
1. 〃 第6号
1. 〃 第7号
1. 〃 第8号
1. 視覚障害者の歩行および訓練に関する参考資料集 (その1)
1. 〃 (その2)
1. 〃 (その3)
1. 〃 (その4)
1. 盲ろう者のリハビリテーション

4. 宿 舎

今回の講習会は4カ月の長期にわたり日本ライトハウス職業・生活訓練センター第2学期の訓練課程と並行して実施したため、昨年まで宿舎として利用した当施設訓練生宿舎は使用不可能であった。そのため今回は希望者に当施設附近のアパートを宿泊所として、斡旋した。

5. 今回の講習会における問題点

従来より期間を延長して行った今回の講習会は、「実習」、「マンツーマン指導による実技」等に大きな意義があった。しかし、この講習会においても次のような問題点が残った。

〈問題点〉

1. 4カ月間の本講習会は日本ライトハウス職業・生活訓練センターの第2学期の訓練と並行して行ったため、14名の受講者を受け入れることにより当施設の歩行訓練総時間のうち講習会実技の占める割合が多すぎそのため、当施設の歩行訓練に弊害をもたらす結果となった。
2. 一度に14名の受講者を受け入れるには多すぎたため、レポート研究発表等、課題を与えたにもかかわらず受講者個々の自由時間が必要以上に多くなりすぎた。
3. 当初予定していた2カ月間の実習は受講者が14名と多人数であったため、実習前に修得が必要な実技指導に時間をより多く必要となったので5週間に短縮せざるを得なかった。

以上が今回の講習会における問題点である。その原因は上述のとおりである。本講習会の内容を充実しより意義あるものにするには、1回の講習会を2期に分けて行なうのが最良の方法である。

おわりに

現在、アメリカでは大学院に歩行指導員養成コースを設置し1年～2年という長期にわたり質の高い指導員の養成を行なっている。

わが国においても講習会形式の養成よりも学校形式による基礎からの指導員養成を近い将来実施すべきである。ただ現段階では、講習会の内容をより充実させ、質の高い指導員の養成を行なうことが急務であり、そのためには、前述した昭和54年度実施試案による講習会を実現させる必要がある。日本ライトハウスでは、この指導員の養成には微力乍ら尽力したいと考えている。